

報告

第36回障害者歩くスキーの集い

張詩爽

1. はじめに

2016年1月17日(日曜日)、「第36回障害者歩くスキーの集い」(朝日新聞北海道支社、朝日新聞厚生文化事業団主催、厚労省等後援、三菱電機株式会社協賛)が札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園、溪流ゾーン・鱒見の滝コースで開催された。障害者歩くスキーの集いは、「1981年の国際障がい者年」を記念して始まった歴史ある大会である。

2. 歩くスキーの魅力

歩くスキーは、クロスカンリースキーの一つで、北海道では、歩くスキーは障害者の間で非常に人気のあるスポーツである。人気の理由は、一般的なアルペンスキーは、スキー場とリフトがないと出来ないのに対し、歩くスキーは、学校の校庭でも近くの公園でも楽しむことが出来るお手軽さにある。移動に不自由のある障害者にとって、交通費をかけずに近くで日常的に出来るお手軽さは重要な要素だろうである。

3. 本年度の障害者歩くスキーの集いの状況

滝野すずらん丘陵公園の溪流ゾーンの歩くスキー「せせらぎコース」は、スタート・ゴール地点を中心にアシリベツの滝へ向かい、滝で折り返すカワガラスコースと、鱒見の滝へ行き、滝で折り返す鱒見の滝コースから構成される。

例年の障害者歩くスキーの集いは、カワガラスコースと鱒見の滝コースを合わせた、「せせらぎコース」の往復で開催していた。しかし、2014年9月の大雨で大規模な土砂崩れが発生し、アシリベツの滝方面

は復旧工事のため現在閉鎖中である。そのため本年度は、鱒見の滝コースの折り返しでの開催となった。

朝8時の気温は氷点下約15度とまだ寒かったが、老若男女の参加者は、すでに集まっていた。そして、午前9時に障害者歩くスキーの受け付けは開始された。

いよいよ大会が開始され、皆さんは笑顔で滑歩し、参加者同士お互いに「頑張って」と掛け合う声が飛び交っていた。

今回の障害者歩くスキーは、観戦を含め、私には初めての取材経験だが、皆さんのあきらめず頑張る姿には、本当に感動した。今回の障害者歩くスキーの集いは、皆さんの笑顔にあふれた大会であった。選手、指導者、係りの方々など、すべての方から、とても楽しい時間をいただいた。皆さんの笑顔は、私にとって宝物になった。



図1 仲良しみんんで頑張った